

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 1章40-45節 (新約聖書63頁)

40 さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。41 イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、42 たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。43 イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、44 言われた。「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」45 しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

手を差し伸べて

何かを伝えるのに言葉や文字は確かに必要です。でも、例えばビートの効いたポップな曲は、そのリズムを聴いただけで思わず指を鳴らしてしまうことはありませんか。また映画やドラマのシーンで、唇が、指先が小刻みに震え、顔を背け、頭を垂れ、悲しみを堪えている後ろ姿の映像が流れるのを観るだけで、いつの間にか涙腺が緩んでしまうことはありませんか。このように言葉や文字がなくても、心に通い合うものがあります。

私の娘と息子がまだ3歳と2歳の頃でした。生まれたばかりの子犬が三人目の子どもとして家族に加わりました。幼い二人が弟の子犬をなでている姿はとてかわいらしく、見ているだけで幸せでした。でも一年もしないうちに、そのゴールデン・リトリバーは成犬になり子どもたちより重くなりました。彼、ミッキーの散歩は私の役目になりました。ミッキーとの13年8ヶ月はまるで夢のようでした。ミッキーは家族に悲しいことがあるとじっと私たちを見つめ、私たちはミッキーをなでているだけで慰められました。

重い皮膚病を患っている人がひざまずき願った時、イエスは何も言わずに「深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ」とありました。重い皮膚病は原因がわからず、人びとは触れると病気が移ると恐れていました。そして病気の原因は、その人が神様に罪を犯したからで、天から罰を受けていると信じたのです。重い皮膚病の人は、友人、家族からも離れて生きていかなければなりませんでした。誰にも近づくことも、声をかけることも禁じられていたのです。

イエスはどのようにして病をいやす前に、皮膚病の人に触れたのでしょうか。それではイエス自身にも病気が移り、人々から罪を負って、罰を受けたと言われます。でもイエスはこの病人の皮膚に触れました。イエスが重い皮膚病の人に触れた瞬間、重い皮膚病の人は驚きと共に、自分が赦され、愛されていると感じたのではないのでしょうか。神様に造られた人として、祝福されていることを初めて感じたのではないのでしょうか。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。あなたは重い皮膚病の人を見て、深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れました。どうか今日一日もあなたを信頼し、互いに励まし合い、神様に造られ、祝福されていることを覚え歩ませて下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。 アーメン